

あなたの「げんき」と「えがお」のために
みんなでちからをあわせます

2027年度
看護職員募集案内



地方独立行政法人 神奈川県立病院機構

神奈川県立こども医療センター

あなたの「げんき」と「えがお」のために みんなでちからをあわせませす

こどもの健康の回復及び増進と、 福祉の向上のため、最善の医療を提供します。

神奈川県立こども医療センターは、1970年に設置された小児専門病院です。こども専門病院、肢体不自由児施設、重症心身障害児施設の3つの施設からなり、病気や障がいのあるこどもたちに医療と福祉を一体として提供している総合医療・福祉施設です。

総合周産期医療センターとして認定されており、妊娠期(胎児期)から小児期、成人移行期に至るまで、こどもの成長発達に応じて、連続した医療を行っています。

また、小児がん拠点病院、アレルギー拠点病院、メディカルゲノムセンターとしても機能しています。各専門診療科、医療技術部門、看護局、施設が協力してチーム医療を行うとともに、こどもの発達に則した包括医療、高度医療を提供しています。センター敷地内には県立横浜南支援学校があり、入院・入所中のこどもたちも教育を受けることができます。

- 病 院 長：石川 浩史
- 診 療 科：30科
- 病 床 数：430床
- 外来患者数：1日平均約700人
- 職 員 数：約900名（常勤のみ）
〔医師：110名 看護師：600名 その他：190名〕



こどもの最善の利益を考え、看護を提供します

- 16病棟、中央手術室、外来、看護教育科の計19看護単位があります。
- 看護提供方式はパートナーシップ・ナーシング・システム®を導入しています。（一部のセクションは除く）
- 患者さんやご家族とともに看護師が話し合い、情報を共有しながら看護計画を立案・実施します。
- 系統的な研修、専門性を深められるような教育体系を作り、キャリア支援に努めています。
- 専門看護師や認定看護師が、看護外来、救急医療、集中ケア、皮膚・排泄ケア、緩和ケア、感染対策等にリーダーシップを発揮しています。
- 勤務体制は、2交替・変則勤務体制を併用し、働きやすい勤務体制を整えています。
- 保育士を配置し、看護師と連携しながらこどもたちの発達段階に合わせた関わりを大事にしています。



こどもの「懸命さ」に触れ、自分自身の成長へ

“あなたの「げんき」と「えがお」のために みんなでちからをあわせませす”

これは、「わたしたちのちかい」という、こどもに向けた当センターの理念です。小児期発症の疾患には、辛い治療や長期にわたる療養を続けなければならないことも多くあります。療養を続ける中で「えがお」や「げんき」になる理由は、こども一人ひとりで異なります。そして、成長発達を続けるこどもには、多職種で協働する包括的な医療が必要となります。「わたしたちのちかい」には、「一人ひとりの最善を考え、チームで医療を提供していく」という意味が込められています。

わたしたちは、こどもとご家族が困難を乗り越え、地域・社会の中で自分らしく成長発達していけるような看護の提供に努めています。看護の仕事は、辛く厳しく感じることもあるかも知れませんが、こどもの懸命さに触れることで、自分自身も成長します。小児・母性看護師として、こどもの「げんき」と「えがお」のために一緒に働きましょう。

副院長兼看護局長 村上 菜穂子

外科系病棟

診療科別に3つの病棟があり、検査や手術を受ける患者さんが多く入院します。発達途中にある小児期の患者さんにとって、手術や入院がもたらす影響は様々です。一人一人の成長発達に合わせた関わりやプレパレーションを通して頑張る力を引き出せるよう、工夫しながら看護をしています。



外来

23の診療科があり、年間約17万人の患者さんが受診します。看護外来や、みらい支援外来を開設しており、多職種で協力し、疾患や障がいを持つ患者さんやご家族が、地域でその家族らしく生活できるよう、支援をしています。

こども医療センターは こんなところ

内科系病棟

小児がんや慢性疾患の患者さんが多く入院しています。入院期間が長い患者さんも多いため、学習や遊びの時間も大切にしています。退院後の生活を見据え、必要な医療の継続と患者さんのセルフケア能力を高められるよう、ご家族と連携しながら看護をしています。



管理棟



こころの診療棟



こころの診療病棟

様々なこころや発達の状況により、身体症状や生活の困りごとなどが現れた患者さんが入院しています。日常生活全般が治療・看護となり、入院生活や他者との関わりを通して、情緒面の成長発達ができるよう、チームで協力して支援しています。

集中・救急医療部門

PICU、ハイケア・救急病棟1、ハイケア・救急病棟2の3つの病棟があります。高度な救急医療を担うため、多くの医療機器があり、些細な変化を見逃さない細やかな観察が求められます。集中治療の中でも、こどもらしく過ごせるように工夫しながら看護をしています。

総合周産期医療センター

母性病棟・MFICU病棟、NICU病棟、新生児病棟があります。母性病棟・MFICU病棟には、妊婦検診で気がかりを指摘された方や、切迫早産で治療が必要な方が入院しています。分娩室はNICUと直通エレベーターで繋がっており、出産後すぐに赤ちゃんの集中治療を始めることができます。NICUでは集中治療と両立して、家族の始まりを支えるケアにも力をいれています。状態が落ち着いた赤ちゃんは新生児病棟に移動し、家族と一緒に退院の準備を行います。



中央手術室

年間約3200件の手術が行われています。こどもが怖がらずに手術に臨めるよう、術前訪問でのプレパレーションや家族同伴入室、おもちゃ・DVDを活用して緊張を和らげる工夫なども行っています。

周産期棟



施設リハビリ棟

施設リハビリ棟

重症心身障害児施設・肢体不自由児施設があります。長期に入所するため、多職種と協働し、社会性や生活習慣を身に付ける事や、個性を大切にその子らしく生活できることを目指しています。



こども医療センターの目指す看護

こどもにやさしい看護 それはこどもの権利が守られていること

こども医療センターを利用するこども達は、成人とは異なり、成長発達の途中で、疾患や障害を持ちます。疾患や障害は、こどもの日常生活に変化をもたらし、成長発達にも大きな影響をも与えます。こどもの権利を守るということは、疾患や障害があっても、その子らしくいられることを意味しています。私たちは、色々な職種や立場の人と連携し、こどもにやさしい看護を目指して、様々な取り組みを行っています。



「みんなでちからをあわせる」 医療の実践

プロアクティブラウンドという、院内急変予防の取り組みに参加しています。集中治療科・総合診療科の医師が中心となり、急変発生時に対応するMETチームメンバーであるPICU、ハイケア・救急病棟1看護師とともに病棟のラウンドをしています。ラウンド時には病棟看護師とともに患者情報から急変のリスクを考え、必要時は担当医師と対応します。こどもの「げんき」と「えがお」のためにチーム医療を実践しています。



小児救急看護認定看護師

リソースナース

変化する医療現場の最前線で働く看護師たちを、専門的知識や技能で支援し、よりよい看護が提供できるよう努めています。

- 小児看護専門看護師
- がん看護専門看護師
- 精神看護専門看護師
- 感染症看護専門看護師
- 家族支援専門看護師
- 慢性呼吸器疾患看護認定看護師
- 皮膚・排泄ケア認定看護師
- 緩和ケア認定看護師
- がん性疼痛看護認定看護師
- 感染管理認定看護師
- 糖尿病看護認定看護師
- 新生児集中ケア認定看護師
- 手術看護認定看護師
- 小児救急看護認定看護師
- 小児プライマリケア認定看護師
- 認定遺伝カウンセラー
- NST専門療法士
- 認定小児アレルギーエドゥケーター
- 認定重症心身障害看護士
- 認定臨床輸血看護士



リソースナースからのメッセージ

現場の看護師が支援の主役！
縁の下の力持ちになる活動を目指して

当院は高度急性期医療を担う小児専門病院であり、どの病期であっても治療だけではなくその人の生活を支えるための看護介入が重要だと感じています。私はそんな支援者である看護師を支援したい！と思い、認定看護師を目指しました。看護師は発達段階、地域の現状等、色々な事が絡み合った課題に直面します。そんな時、現場と一緒に働いているという強みを活かし、生の声から課題をキャッチします。看護師自身の力が伸びるよう、知識や連携力を用いて介入しています。ぜひ、一緒に看護を考えましょう！



小児プライマリケア認定看護師

地域連携

退院・在宅医療支援室では、医療ケアを必要とするこどもが、スムーズに在宅へ移行できるよう、地域の病院や訪問看護、保健師などと連絡調整を担っています。病棟看護師とのカンファレンスなどから必要な支援を検討し、退院後も住み慣れた地域で、こどもと家族が安心して療養生活を継続できるよう、支援を行っています。



移行期支援・みらい支援外来

初めは、ご家族が中心になってこどもの病状理解や治療選択を行っていたとしても、こどもの成長に合わせて、こども自身が病気を理解し、病気と付き合いながら生活できる力を養う必要があります。成人診療科への移行支援、みらい支援外来などで、小児医療のその先に繋がるサポートをしています。

小児がん相談支援室

小児がんの患者・家族は、病気や治療から様々な苦痛を経験したり、難しい意思決定が必要となることもあります。こどもと家族にとってより良いQOLが得られることを目指し、多職種で連携しています。また、こどもや家族の「おはなししたいこと」にしっかりと耳を傾け、そして共に問題や悩みの解決が図れるように一緒に考えていくことに努めています。

緩和ケアサポートチーム

こどもと家族の「つらさ」を緩和するための、様々な取り組みをおこなっています。ファシリテイドッグ「オリ」もチームの一員で、看護師であるハンドラーとともに、ベッドサイドへ訪問したり、処置や検査・リハビリに付き添ったりします。「オリと一緒にがんばれる」と話すこども達も多くいます。



こどもの「今を」 大切にできる看護を

がん性疼痛看護認定看護師として緩和ケア普及室で活動をしています。多職種で構成されている緩和ケアサポートチームで、生命を脅かされている疾患をもつこどもの苦痛緩和をはじめ、意思決定、グリーフケアを家族、きょうだいも含めて支援をしています。病棟スタッフとともにカンファレンス等で話し合いながら、こどもの「今」を大切にできるケアに取り組んでいます。



緩和ケア普及室
看護師



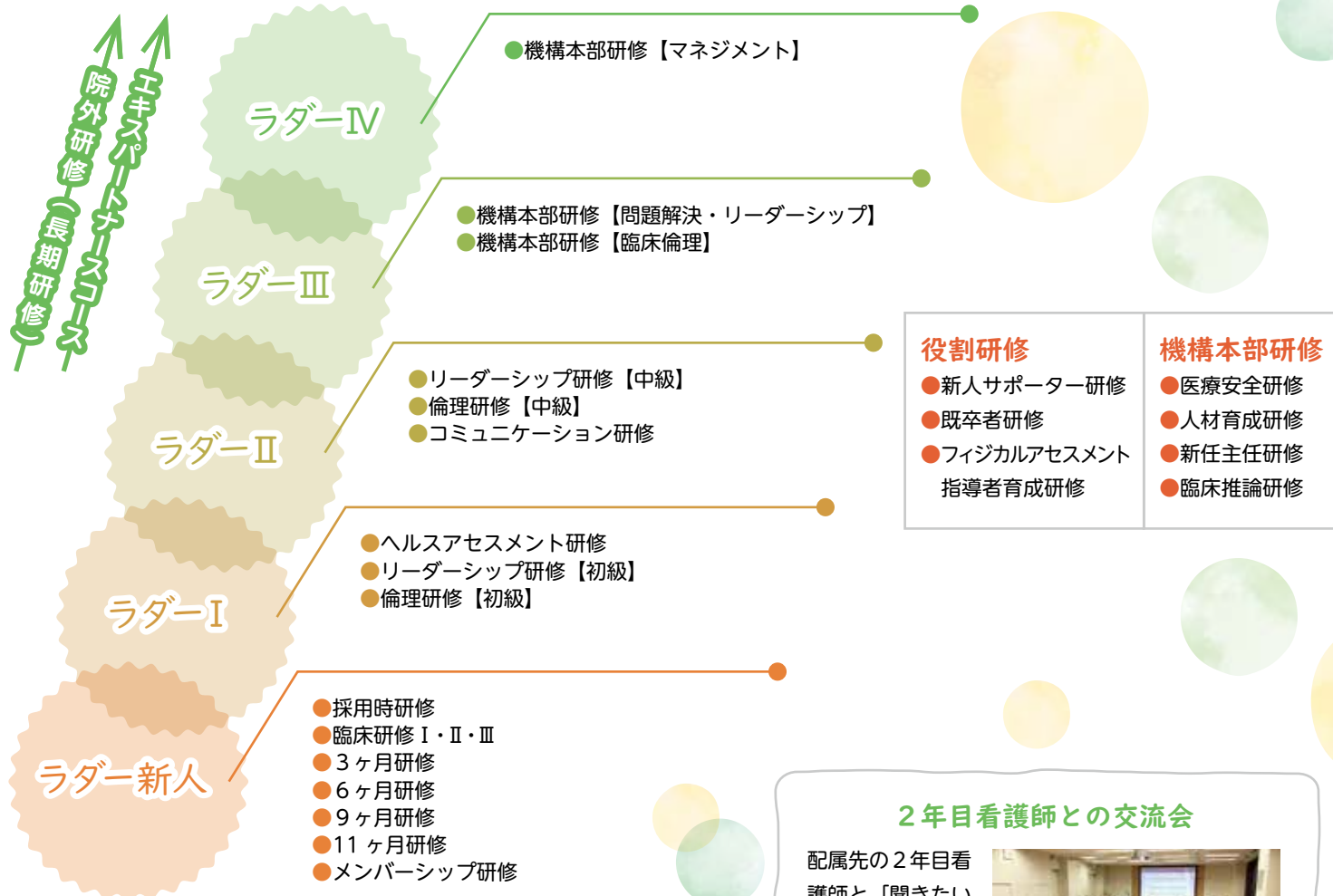
私達も緩和ケア
サポートチームの
メンバーです

ファシリテイドッグとハンドラー

教育体制

幅広い視野と温かい人間性を持ち、患者の最善の利益を考えて行動することのできる看護師を育成します

看護師としての自己実現



新人看護師1年間の研修

新卒新採用看護師に対して、新人サポーターと呼ばれる先輩看護師がペアとなり、1年を通して知識・技術面や精神面のサポートをします。おおよそ3カ月毎の集合研修と分散研修とOJTを通して、臨床実践能力の向上と専門職業人としての成長を目指します。

4月【採用時研修】

こども医療センターの職員として必要な知識を学びます。



4～9月【臨床研修】

「こどもの療養環境における安全演習」や「緊急時の対応」などについて学び、基本的な臨床実践能力の基盤をつくります。



7月【3ヶ月研修】

模擬事例をもとに、必要な観察、アセスメントを考えます。小児の特徴を理解して、フィジカルアセスメント能力向上と看護実践に活かすことを目指していきます。



2年目看護師との交流会

配属先の2年目看護師と「聞きたいこと」「夜勤開始に伴う心構え」など、自由に語り合います。



新人看護師からメッセージ

先輩方の支援を受け、 看護師として日々学んでいます！

様々な疾患の患者さんが入院しており、求められる知識や技術は多く、集中治療を受ける中で発達段階を考慮した看護の難しさを日々感じています。その中で、先輩方は理解できるまで丁寧に指導して下さり、多くの支援や助言をいただきながら日々学んでいます。小児看護を行う中でも、患者さんご家族に向き合い、親子の関わりを大切にしたい看護が提供できるようになりたいです。今後も知識・技術の習得に努めていきます。



PICU病棟
新人看護師

新人サポーターからのメッセージ

新人看護師と共に成長できる サポートを目指して

はじめての新人サポーターという役割を担い、特にPICU病棟では、重症度も高く緊張感がある環境の中で、不安や緊張を感じている新人看護師をどうサポートしたらいいか悩む事が多くありました。病棟の先輩方に助言をもらいながらサポートし、新人看護師が少しずつ出来ることが増え、患者さんやご家族と関わる姿をみて、日々の成長を感じることができやがいを感しました。これからも新人看護師と一緒に成長していきたいと思っています。



PICU病棟
新人サポーター

新人教育委員からのメッセージ

看護のやりがいや楽しさを 一緒に感じ合える関係を大切に

初めて看護師として働く新人看護師が、戸惑いや不安の中でも安心して看護実践ができるよう、新人サポーターと連携しながら、スタッフ全体で支援できるように心がけています。新人看護師が患者さんやご家族との関わりを通して、看護のやりがいや楽しさ、自身の興味のあることを見つけて学ぶ姿が、私にとっても刺激になります！



PICU病棟
新人教育委員

エキスパートナースコース受講者メッセージ

周術期の不安軽減・疼痛緩和に 取り組んでいます！

エキスパート講義では、専門性をもつ看護師から小児看護を学び、日々の実践に直結する知識を得ました。苦痛には身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな側面があり、侵襲を伴う手術室での術前訪問や入室時から麻酔導入までのスタンパリー、玩具や動画を用いた関わりは、不安軽減だけでなく疼痛緩和にもつながると気づきました。今後もこどもを多角的に捉え、こどもたちとの関わりを工夫していきたいです。



中央手術室
看護師

KCMC小児看護エキスパートナースコース

小児看護のエキスパートを育成するためのコースを開講しています。院内研修でリーダーⅡ以上を取得した看護師が対象です。2年間のコースで、小児看護に関する様々な専門領域の講義を受け、看護研究にも取り組みます。コース修了者は、修了バッジをつけており、院内の各所でリーダーシップを発揮しています。



レクでリフレッシュ!!



9月【6ヶ月研修】

3カ月研修で取り組んだ事例をもとに、観察と看護ケアを深めます。

2月【11ヶ月研修】

看護過程を通してクリティカルシンキングを学びます。また、1年を通して学んだことや「私の大切にしたい看護」を共有します。

12月【9ヶ月研修】

患者・家族を尊重した看護、看護倫理について考えます。



OJTで日々、学びを
深めていきます。

わたしたちが こども医療センターを選んだ理由

サポートを受けながら一步步 スキルアップしています！

私は小児医療でスキルアップしたいと思い、小児専門病院として歴史があり、こどもと家族のための最善の看護を学ぶことができる当院に入職しました。配属先は手術を受けて退院する患者が多く、当初は先輩方のようにになれるか不安でしたが、サポートを受けてできることも増えました。忙しい毎日ですが、手術を乗り越えて回復へ向かう患者さんの姿に勇気づけられ、一緒に喜びを分かち合えることにやりがいを感じています。



4階南病棟 2年目看護師
2024年入職

個別性をもった患者さんに 寄り添う看護をしていきたい

以前NICUで勤務し、母乳育児支援に悩んだ経験から、より支援ニーズの高い患者さんが多い当院で知識・技術を深めたいと考え転職しました。また、緊急時対応やハイリスク妊婦の管理を学びたいという思いもありました。患者さんの不安に触れ、個別性の看護に悩み無力感を覚えることもありますが、先輩方の支えで視野が広がり、患者さんが笑顔で退院される姿にやりがいを感じています。今後も学びを重ね、患者さんに寄り添う看護を目指します。



母性・MFICU病棟 助産師
2025年入職(既卒)





看護師の一日







アクセス 周辺環境








神奈川県立こども医療センター

公共交通機関 約1時間 車 約30分	 羽田空港
公共交通機関 約45分 車 約25分	 新横浜駅
公共交通機関 約1時間 車 約50分	 東京駅
公共交通機関 約30分 車 約20分	 横浜駅

観光スポット

 みなとみらい 公共交通機関 45分 車 25分	 中華街 公共交通機関 40分 車 25分	 鎌倉 公共交通機関 45分 車 40分	 ディズニーランド 公共交通機関 1時間30分 車 50分
--	---	--	---

周辺環境

 京急弘明寺駅 バス 10分	 JR東戸塚駅 バス 17分	 スーパーマーケット 徒歩 5分	 ドラッグストア 徒歩 7分	 カフェ 徒歩 8分
---	--	---	---	---

多様な働き方の支援があります

育児と仕事の両立をしている看護師がたくさん働いています。復職支援として、産休・育児中のママの会を開催しています。

主な育児支援制度：育児休業、育児短時間勤務制度、短時間正規職員制度、院内保育

ママさんナースからのメッセージ

**2つの制度を利用しながら、
仕事と子育てに奮闘しています**

私は現在5歳と2歳のこどもを育てながら、週4日の短時間正規職員制度と部分休業の制度を併用し、5階西病棟で働いています。また夜勤も月に2〜3回ほどしています。始めは復職への不安もありましたが、家族、そして病棟スタッフの理解と協力もあり働き続けることができています。患者さんご家族へどう寄り添えるか、子育てを通してより一層感じた私の看護観を大事に働いていけたらと思っています。



5階西病棟
看護師

看護師寮

病院に隣接した医療従事者宿舎（独身寮）があります。間取り1Kタイプ、バストイレ別。使用料月12,700円。遠方の方優先、居住期間は最大3年です。



寮 外観



寮 室内



地方独立行政法人 神奈川県立病院機構
神奈川県立こども医療センター

〒232-8555 横浜市南区六ツ川 2-138-4

TEL 045-711-2351 (代)

神奈川県立こども医療センター 公式サイト <https://kcmc.kanagawa-pho.jp/>



採用に関する情報はこちら

神奈川県立病院機構 看護職募集サイト

<https://kanagawa-pho.jp/kango/index.html>

